

置戸町

北海道
おけと



Oketo town

置戸町（おけとちょう）は北海道の東部オホーツク地方の南西端に位置し、面積の8割以上を森林が占める林業と農業の町。人と木が寄り添い共存しながら、まちの文化を形成しています。全長8mにおよぶシロハヤブサを模した野外彫刻は、おけと勝山温泉ゆづりに設置され、自然と調和しながらランドマークとしてまちを見守り続けています。

Roberto Julio Bessin
1994 Shirohayabusa

1-5 Tsunemoto, Oketo town, Tokoro-gun, Hokkaido



人と、木と、おけと

秘町、発見。



自然を愛し、
人にやさしいまち

広報 おけと

KETO

2020

3

3/2 置戸高校卒業式



2/6 ふたつの「みらい」から地場産食材提供



ひとまち おけと

2/8～9 第17回キッチンファクトリー



2/23 公民館教室 風景写真教室「冬」





2020 年東京五輪・パラの選手村ビレッジプラザ内覧会

選手村ビレッジプラザは、建設材として全国63自治体、道内では置戸町、紋別市、遠軽町、下川町が参加して木材を提供しました。町提供材はトドマツなどの角材、11.1794m³。1月30日から二日間、同施設では内覧会を開催し、関係者に披露されました。町提供材は、全13棟のうちの主にA3棟の床材として町名の焼き印が見えるように使用。大会終了後、施設は解体され、提供材は町に返却・再利用する予定です。



地方教育行政功勞、高垣恵司さん旭日双光章伝達

高垣恵司さんは、昭和53年から29年間にわたり、町教育委員会委員として、うち12年10月から平成19年9月までの7年間は委員長を務めるなど、町教育行政の尽力し、教育環境整備の推進・発展に大きく貢献しました。その功績が認められ、2月20日、役場庁舎において、高齢者叙勲旭日双光章が井上町長から高垣さんに伝達授与されました。



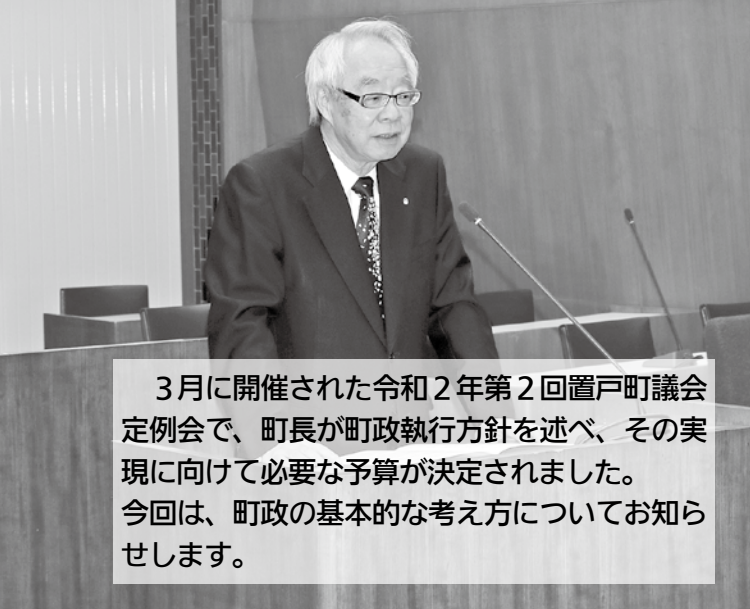
おいしいそばと歌で笑顔の昼食会

2月19日、町社会福祉協議会主催のふれあい昼食交流会が手打ちそば愛好会「無口の手八丁」やボランティア「つつじの会」の協力の下、地域福祉センターで開催されました。70歳以上のひとり暮らしの方48人が参加。食前には道薬剤師会北見支部の越智哲夫氏による勉強会を実施しました。余興では、女性ボーカルデュオ・フミカナさんや川向地区カラオケ愛好会の歌謡曲を楽しみました。



北見工大准教授による置戸中学校震災学習

東北の被災地を訪ねる5月予定の修学旅行の事前学習として、2月25日、北見工大の宮森保紀准教授と岩手県出身の大学院生を講師に招き、置戸中学校で震災学習が開かれ、同校の1、2年生が参加しました。宮森准教授は、東日本大震災などを教訓に「想定にとらわれず、まずは自分自身が避難すること。その姿を周囲に見せることで、結果的に多くの人の命を救う」と生徒たちに語りかけました。



3月に開催された令和2年第2回置戸町議会議定例会で、町長が町政執行方針を述べ、その実現に向けて必要な予算が決定されました。今回は、町政の基本的な考え方についてお知らせします。

令和2年度 町政執行方針 (要旨)

私は、本年6月、町長としての任期が満了いたします。

平成12年に多くの町民の方々よりご支援をいただき、5期20年の長きにわたり、町政を担当させていただきました。この間、「まちづくりは、みんなの幸せづくり」を基本理念に、町民の皆さんとともに、まちづくりに情熱を傾けてまいりました。

本年1月の年頭のご挨拶において、任期満了をもって退任する決意をいたしました。残された任期を全力で努めてまいりたいと思います。

平成22年度から推進してまいりました第5次置戸町総合計画は、予定されていた事業を順調に実施することができ、一定の成果を挙げながら、本年3月をもって終了いたします。

4月からは、新たに10年間のまちづくりの指針となる「第6次置戸町総合計画」がスタートし、また同時に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」とも連携した新たなまちづくりが進められることとなります。

少子高齢社会を迎え、国・地方ともに大変厳しい状況にある中で、昨年10月に北見市を中心市として、本町のほか訓子府町・美幌町・津別町の1市4町で北見地域定住自立圏を形成いたしました。これから様々な分野において相互に役割分担し連携協力して取り組んでいくこととなります。

本町における財政見通しは、地方交付税の増額

や堅調な農業所得により町税の伸びが見込まれるものの、依然として進む人口減少や地域経済の低迷により、安定した財源確保が難しい状況にあります。

歳出においても、昨年の消費税率引上げの影響から人件費や物件費が増加し、加えて完了した水道再編事業等において借入れした地方債の償還が本格化します。

このような状況の中、令和2年度の予算編成は、引き続き財政の健全性の維持を基本として、限られた財源の中で緊急度・重要度の高い事業を優先して取り組むことといたしました。町長改選期であるため、当初予算では人件費などの義務的経費、継続的な普通建設事業費などを中心とした骨格予算としております。

昨年11月24日に、北海道日本ハムファイターズ応援大使市町村に置戸町が選ばれ、応援大使に中田翔選手、清水優心選手が決まりました。これを契機として、町の情報発信や宣伝、スポーツ振興や健全育成に地域一丸となって取り組み、明るいまちづくりを推進してまいります。

町民と行政が一体となり、第6次置戸町総合計画が目指す「笑顔と夢を未来につなぐまち」の実現に向け、町政に取り組んでまいりますので、町議会議員をはじめ町民の皆さんの深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

健康で安心に暮らせるまちづくり

○健康づくりと保健事業

第2期健康増進計画に基づき、乳幼児から高齢者までの健康づくりと疾病予防対策として、各種健診や予防接種、訪問活動などにより推進します。

○母子保健事業

不妊治療費や妊産婦が専門医療機関に受診するための通院費助成、産婦健康診査事業及び産後ケア事業を継続し、支援の充実を図ります。

○生活習慣病に起因する疾病予防

特定健康診査及びがん検診の受診率向上を図るとともに、PET-CT検査の助成を開始します。生活習慣病に着目した生活指導や特定保健指導を推進するとともに、食生活改善推進員協議会の地域での活動を支援します。

○歯・口腔の健康づくり

幼児期からのブラッシング指導、虫歯予防に効果的なフッ素・サホライド塗布及びフッ化物洗口の実施、加えて歯周病の早期発見、治療のため歯周病検診を実施します。

○子育て支援事業

令和2年度から5年を一期とする「第2期置戸子ども・子育て支援事業計画」を昨年策定しました。本計画に基づき、町全体で子育て家庭を見守り、応援し、支えるまちを目指して、様々な子育て支援施策を推進します。

認定こども園こどもセンターどんぐりの増改築工事や備品整備のほか園舎の環境整備を図ります。

また、保育料及び副食費の無償化の継続、健やか子育て応援事業の拡充など子育て環境の充実を図ります。



こどもセンター
どんぐり運動会
(昨年6月)

○福祉バス更新事業

町民の研修機会や福祉目的で利用する福祉バスは、新しい車両に更新します。車両には、多くの方々に置戸町を知っていただく走る広告塔になるようなデザインで、ラッピングします。

○高齢者保健福祉・医療・老人ホーム

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は、第7期の最終年を迎えます。町民だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、関係機関と連携を図りながら福祉サービスの充実に努め、高齢者のニーズ調査や次期計画策定に向けた準備を進めます。

地域密着型サービスとして運営されている通所介護事業所と認知症対応型共同生活介護施設に対し、運営費の補助を行うとともに、利用者及び低所得者の負担軽減を図り、高齢者の生活を支える事業所の利用促進と安定的な運営への支援を行います。

質の高い医療の提供や地域医療の充実のため、置戸赤十字病院に引き続き医療機器更新などへの財政支援を行います。

老人ホームについては、指定管理者の社会福祉協議会と連携を密にし、改築への協議を継続するとともに利用者に対するサービスの質の向上と安定した運営が図られるよう、引き続き支援します。

○障がい者福祉

心身障がい者が必要な治療や訓練などを受けるための通院・通所にかかる交通費の助成、及び放課後等児童デイサービス利用者に対しての利用促進事業を継続し、経済的・身体的な負担軽減を図ります。

障がい者活動拠点施設の管理運営と、福祉的就労や作業訓練、地域サロン活動などを実施するNPO法人に対して、引き続き支援します。



キッチン木の实
6周年感謝まつり(1月)

にぎわいと活気あふれる産業のまちづくり

○農業・畜産関係

道営事業は、農業競争力強化基盤整備事業により、区画整理や暗渠排水を中心に土地改良事業を継続します。

また、農地中間管理機構関連農地整備事業により拓実北・南地区で土地改良事業に伴う測量試験を行います。

農道整備は、秋田留辺蘂線の舗装工事及び町道幸岡雄勝線の改良工事に伴う点検診断調査を行います。

団体営土地改良事業は、老朽化に伴う常盤地区営農用水施設の点検診断を行います。

畜産関係は、きたみらい哺育育成センターへの採草地貸付料の減免措置を継続し、酪農家の負担軽減を図ります。

多面的機能支払交付金事業は農地の維持、資源の長寿命化、農業関連施設の保全に取り組みます。

○林業関係

林業関係は、本年度より森林環境譲与税を活用した事業が本格実施されます。森林経営管理委員会を設置して事業内容の充実を図り、計画的な森林整備の促進に努めます。林業労働者の雇用の安定と効率的な森林整備を図るため、新規林業労働者の確保と通年雇用や、林業・林産業機械導入に向けた補助制度の活用を推進します。

町有林は、各種補助制度を有効活用し、除伐、間伐及び造林事業など、計画的な森林整備を推進します。民有林は、未来につなぐ森づくり推進事業の支援と公的管理との調整を図りながら整備を進めます。

○商工業関係

置戸町美しい商店街奨励事業制度と置戸町未来の起業補助事業の有効活用により、商工業の活性化を図ります。

○観光関係

おけと勝山温泉ゆうゆは町民のみならず近隣市町の皆さんからも利用いただき、入浴客数も当初見込みを上回る利用となっています。引き続き、施設

や設備の整備を図るとともに、イベントやPR活動を通じて、多くの皆さんから愛され親しまれる施設となるよう支援します。



おけと勝山温泉
ゆうゆ20万人
達成（2月）

○オケクラフト関係

一般社団法人おけと森林文化振興協会が、引き続き地域ブランドとして、オケクラフトの更なる振興発展に向けた販売や商品開発に取り組んでいます。今後とも協会運営の支援や作り手との連携を図ります。



るんるん市（昨
年8月）

ふるさとへの愛着と誇りを育むまちづくり

将来を担う子どもたちに対する教育の果たすべき役割が重要であることから、「家庭・学校・地域」が連携して社会全体の教育力向上を図るとともに、町民一人ひとりが生涯にわたり健康で充実した生活を送れるよう生涯学習社会の実現に向けて、教育委員会との連携を図りながら重点的な施策について進めていきます。

社会教育では、策定された第11次社会教育5か年計画に基づき、ふるさとを愛する人づくりを進めます。

公民館施設では、秋田地区住民センターの音響機器の更新を実施します。

地域文化の保存や伝承関係では、豊年種まき踊り保存会が設立50周年、置戸町獅子舞保存会が設立44周年、郷土史研究会が設立50周年を迎えるにあたり、記念事業に対する支援を行います。

放課後児童クラブの登録児童の増加や施設用品の老朽化に伴い、児童用机及び椅子を更新します。

図書館では、郷土資料デジタル化事業として、引き続き置戸村史や各種写真、映像資料等のデジタル化作業を進めます。

今年度から本格的にスタートする「小中一貫教育制度」では、「ふるさと教育の充実」を重点課題として、新たなふるさと教育の実践を図ります。中学校では、当初3年限りとしていました震災学習旅行を延長し、本年度も実施します。

置戸高等学校への支援では、置戸高等学校支援対策協議会を通じた各種支援と「福祉の夢」サポート奨学金の支給を引き続き実施します。

社会体育では、老朽化の激しい水泳プールのろ過設備、給湯設備等の更新を実施します。

郷土資料・文化財関係では、昨年に続き「ふるさと教育」として、中学生を対象とした遺跡発掘体験学習を実施します。

森林工芸館では、オケクラフト作り手養成に1名の塾生を受け入れ、これまでの経験を活かしながら、より効率的、効果的な研修に努めます。

どま工房では、郷土資料との連携を図りながら、秋岡コレクションの基礎知識や手仕事文化について、更なる情報発信に努めます。

快適で安全な暮らしを支えるまちづくり

○防災関係

様々な災害に対応できるよう自治会などと連携し、自主防災組織の設立や活動支援を進め、地域防災力の向上を図ります。また、防災マップの改訂や国土強靱化計画の策定を進めます。

○消防関係

住民の生命身体及び財産を災害等から守るため、引き続き消防体制の強化を図ります。

○道路整備・橋梁修繕

小、中学校の通学路において歩道の傷みが進ん

でいる区間の舗装修繕を実施します。また、七尾橋の修繕工事に向けて実施設計を行います。

○町営住宅整備

昨年に引き続き川向及び新光団地5棟10戸の外壁と屋根の大規模改修を実施し、入居者の住環境向上を図ります。

○地域の情報発信

まちの魅力や情報を広く発信するため、町のホームページをリニューアルし、必要かつタイムリーな情報発信に努めます。

未来に向けた持続可能なまちづくり

本年は、町制施行70周年の節目の年になることから、まちの魅力を広く発信するPR映像を制作いたします。

○広報広聴活動

広報おけとの内容充実を図り、広く町民の皆さんの意見や提案をいただく場として、各地区懇談会の開催などを通じて広聴活動の充実に努めます。

特 別 会 計

○国民健康保険

都道府県が市町村とともに安定的な財政運営や、効率的な事務などの役割を担い3年目を迎えます。生活習慣病の増加や、医療の高度化に伴い、医療費は増加傾向にあります。予防への取り組みや、特定健診などの受診率を向上させ、町民の皆さんの健康づくりに努めます。

○後期高齢者医療制度

高齢化率の上昇とともに医療費の増加が見込まれます。今後も、健診事業の推進による医療費の抑制に努め、高齢者の皆さんが、安心して必要な医療を受けられるよう努めます。

○介護保険制度

第7期介護保険事業計画の最終年を迎えます。高齢者が住み慣れた地域で、健康で自立した生活が送れるよう地域包括ケアシステムを構築するとともに、生活支援コーディネーターを中心に生活支援や介護予防活動の取り組みを推進します。

○地域支援事業

個人ボランティアの育成と活動支援、各関係団体や地域での支え合い活動などの推進、地域サロンや機能訓練などが気軽にできる場の確保など、住み慣れた地域で健康的な在宅生活が送れるよう、

より一層の充実にに向けて支援します。

○認知症施策

高齢者等SOSネットワーク事業や認知症総合支援事業などによって、認知症の人やその家族を支援します。

○介護サービス事業

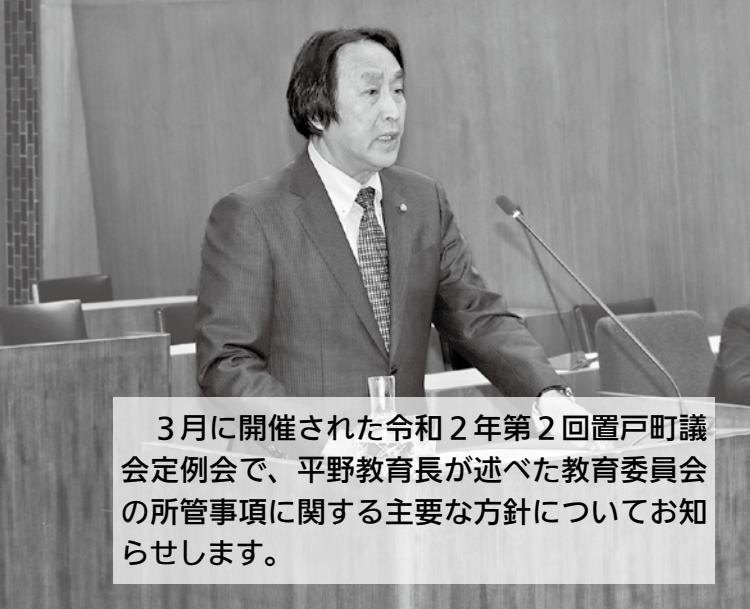
地域包括支援センターを中心に、要介護者や要支援者に対する適切な居宅サービスや施設サービスの提供に努めます。

○簡易水道事業

旧鉄道軌道下に埋設されている古い水道管の取替工事を実施します。

令和2年度 置戸町各会計予算

一 般 会 計		41億6,700万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	4億9,520万円
	後 期 高 齢 者 医 療	5,580万円
	介 護 保 険 事 業	3億6,260万円
	介護サービス事業	990万円
	簡 易 水 道 事 業	1億7,330万円
	下 水 道 事 業	1億9,140万円
合 計		54億5,520万円



3月に開催された令和2年第2回置戸町議会定例会で、平野教育長が述べた教育委員会の所管事項に関する主要な方針についてお知らせします。

令和2年度 教育行政方針 (要旨)

学 校 教 育

今年度から本格的にスタートする「小中一貫教育制度」については、「ふるさと教育の充実」を重点課題の核とし、ふるさとへの愛着と誇りを育むため、各公民館・図書館・森林工芸館と連携をしながら、地域の身近にあるものを教材とした新たなふるさと教育の実践を図ります。

外国語等の乗り入れ授業や、異学年での体験授業、小中学校教員の相互授業参観実施などを積極的に取り組み、ふるさと教育だけではなく、ほかの教科についても連続性のあるカリキュラム作成に向け具体的な検討を進めます。

コミュニティ・スクールの導入により、地域の方々の声を学校運営に反映させ、地域力を借りながら開かれた学校を目指します。

○学力向上対策

小学校に学習支援員1名を配置し、個に応じた効果的な指導に取り組みます。

夏季・冬季休業中の「学習サポート」を通じて、家庭学習の習慣化に努めます。

○体力向上対策

スポーツ少年団などの各関係機関と連携し、様々なスポーツに親しむ機会を通じて体力の保持増進に努めるほか、日常生活の中でも体力の向上が図られるよう取り組みます。

○小学校

指導用教科書や指導用デジタル教科書、プログラミング教育に対応する教材を整備します。

児童の歯の健康づくりを推進するため、フッ化物洗口を継続します。

○中学校

義務教育教材、電子黒板機能付きプロジェクターとマグネットスクリーンを整備します。体育

館舞台上の照明器具などを改修します。

東北地方を訪問する震災学習旅行では、子どもたちの防災に対する心構えや意識が醸成され、一日防災学校の実施などの成果から防災教育を強化推進していく観点により、当初3年限りとしていた震災学習旅行を本年度も実施し、関係機関と連携を図り「防災教育」を強化、推進します。



一日防災学校、避難所開設を学ぶ様子（昨年7月）

○教職員の働き方改革

教職員の業務軽減化として、小学校・中学校に校務支援システムの導入と勤務時間外対応の留守番電話機能を整備します。

○特別支援教育

小学校4名、中学校1名の支援員を引き続き配置します。特別な教育的支援を必要とする児童には、関係機関が連携協力し状況把握に努めるとともに、教育相談体制の充実を図ります。

○国際化教育

外国語指導助手を小・中学校へ派遣し、外国語に慣れ親しむ環境の中で、国際感覚やコミュニケーション能力の基礎を培います。

○置戸高等学校への支援

福祉教科準教科書の支援とバス通学費や寮費の一部支援、希望者への学校給食の提供など、置戸高等学校支援対策協議会を通じて各種支援を継続します。

「福祉の夢」サポート奨学金制度は、引き続き実施します。

社会教育

第11次社会教育5か年計画の初年度にあたり、地域の人々のつながりの中で、地域力の向上を目指します。各重点目標と推進項目に沿って事業を推進し、ふるさとを愛する人づくりを進めます。

○公民館活動

各地域が独自性を活かした活動の展開を図るために地域活性化事業を推進し、地域や生活の課題に向き合った共同学習の推進を図るために、生涯にわたって学び続けられる体制づくりを進めます。

○社会教育関係団体

置戸町芸術文化鑑賞協会の活動再開を支援します。豊年種まき踊り保存会設立50周年、置戸町獅子舞保存会設立44周年、郷土史研究会設立50周年記念事業を支援します。

○放課後児童クラブ

児童用机及び椅子の更新を図ります。引き続き地域コーディネーターを配置し、保護者・学校・地域と連携した取り組みを進めます。

○食のまちづくり推進事業

地産地消をはじめとする食育の普及に努めるとともに、農業・商業・観光及びオケクラフト分野との連携を図り、役割分担を明確にしながら特産品の開発・商品化に向けた取り組みを支援します。

○郷土資料・文化財関係

各団体が行う埋蔵文化財発掘調査への協力をはじめ、中学生を対象とした遺跡発掘体験学習を実施するとともに、札幌学院大学との地域交流協定に基づく事業の充実に向けて進めます。



1 遺跡について学ぶ置戸中
年生(昨年8月)

○施設改修

秋田地区住民センターの音響機器を更新します。

社会体育

ファミリースポーツセンターのトレーニングルームでの体力向上を核に、今後も定期的に健康運動指導士を配置します。「おけとわんぱくクラブ」、少年少女スポーツ教室の開催、スポーツ少

年団活動を支援します。

施設改修では、老朽化の激しい水泳プールのろ過設備、給湯設備等を更新します。

森林工芸館

作り手養成塾は、1名の2年生と新たに1名の塾生を受け入れ、2名体制となります。

すくすくギフト事業は、引き続き実施します。

一般社団法人おけと森林文化振興協会は、設立後6年目を迎え、新しい取り組みを進めてきています。流通販売経路の拡大、安定的かつ円滑な材料の供給提供に向けて更なる連携を図ります。

○どま工房 秋岡コレクション

小・中学校で実施している秋岡コレクションの出張授業の更なる充実を図り、町民への情報発信にも積極的に取り組みます。



秋岡コレクションを学ぶ
置戸小4年生(昨年12月)

図書館

図書館の利用促進、特に各学校と連携して児童生徒の読書活動の推進を図ります。

ファーストブックプレゼント事業を継続し、その後の小学校就学前幼児を対象としたフォローアップ事業の検討・実施を進めます。

郷土資料デジタル化事業は4月から順次閲覧提供を進めるとともに、引き続き各種写真・映像資料等のデジタル化作業を進めます。

学校給食

給食は地域の自然や食文化などの理解を深めるための「生きた教材」となっていることから、栄養教諭と教職員が連携し、食に関する正しい知識と感謝の心を育む指導の充実と、望ましい食習慣を身に付けるよう、積極的に食育に取り組みます。

地元食材を積極的に取り入れ、季節や地域の文化・伝統を身近に感じることができる特色ある給食の提供に努めます。

まちづくりを考える、第42回町民憲章推進大会開催

置戸町自治連絡協議会など主催の町民憲章推進大会が2月16日、中央公民館で開催され、町民約140人が参加しました。観光カリスマとして国内の地域振興など様々な事業化を推進している山田桂一郎氏が、「地域の自立と持続のために～置戸町の魅力あるまちづくり～」と題して、講演を行いました。山田氏は、経済や人口統計などを元に具体的な数字を示し置戸町の状況を語り、住民や行政が、今、何をすべきなのかを問いかけました。今回は、講演内容の一部を紹介します。

地元で生まれ育った子どもたちを呼び戻せるまちへ

住民が幸せになり、まちが豊かになることがまちづくりの目的。今、実際に地域に住んでいて、まちで活動できる人が、そのために必要な政策や事業を進めていかななくてはなりません。新しいことを取り組む前に過去の事業を総括すべき。これまでであった制度は当たり前と思わず、考えてみましょう。まちで活動できる人が疲弊していかないように重複していることはやめましょう。

どれだけよい仕組みや組織を立ち上げても、エゴと利害関係が原因で止まります。誰が困っているのか、将来誰が困るのかを考えてみましょう。

少子化と高齢化は、別々の問題です。置戸町の15歳～64歳の転入出を見ると、出ていく人は多いですが、0歳～4歳は増加しており、次世代再生

力が高い。今後、この子どもたちを呼び戻すことが大切です。地元で生まれ育った人たちが戻ってこないまちに移住者は来ません。

外貨を獲得するためには、付加価値や生産性の高いもの、ここに来ないと買えないものや体験など、価値を選ばれて来てもらうことが必要です。

地域に必要な産業・事業には、リアリティがあり、住民のライフスタイルに合っているのものを。例えば、オケクラフトの食器。使わないと意味がない。乾杯はおけとのワイン。地元のものを使い、地元の食材を食す。

地域内の需要を活性化させ、自信と誇りに満ちたまちを目指す。資源はある。「このまちには何もない」とは言わないでください。



■山田桂一郎氏プロフィール

JTIC、SWISS代表、55歳、三重県出身。1987年からスイス・ツェルマット観光局などでマーケティング・セールスを担当。マーケティングとブランディングの経験を活かし、日本国内で地域振興や経済活性化や人材育成など様々な事業化を推進。スイス在住。

これまでの積み重ねが評価、一人ひとりの生徒に届けたい

2月16日、第54回置戸町表彰式では、各分野で町の振興発展に貢献された方に対し、その功績をたたえ、個人46人が表彰され、1人に日本善行会善行表彰が伝達されました。

今回は、教育活動の今後の活躍を祈念し表彰された置戸高校の水谷愛教諭を紹介します。



授業では実例や図解、福祉が題材のおすすめの書籍なども掲載し、創意工夫されたプリントを活用。

水谷愛教諭は、平成20年度に同校に着任。福祉に携わる人材育成や実践的な授業が評価され、全国の国公私立の教職員をたたえる「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞しました。今回の表彰式では、今後の活躍を祈念し、町から表彰されました。

水谷教諭は「置戸高校のこれまでやってきた教育活動の積み重ねが評価され、私は代表として受け取ったものと、身の引き締まる思いです。同校では専門的な知識技術だけではなく、介護士として求められる人間性、心の教育を大切にしています。一人ひとりの生徒に届けられるように、これからも取り組んでいきたいと思います」と話してくれました。

PRポスター ポストカード 完成しました

表紙の堂々としたシロハヤブサは、ロベルト・ベッシン氏の手により生み出された精巧な野外彫刻。おけとの自然と調和し、まちを見守ります。見る人に

インパクトを与えるポスターです。

裏表紙では、迫力ある三本桂と夏の物語が心に爽やかな余韻を残します。コピーは、まちづくりの鍵となる「人」、自然豊かなおけとの「木」、まちの文化を形成する二つを未来につなげて新しいおけとを創造します。ハートのようなロゴマークは、三本桂の葉とOKETOのOKを意匠化。

なお、3月中に自治会を通して配布を予定していた「オリジナルポストカードおけとの四季」（4枚1組）は、4月以降に延期します。また、追加希望者には4月より200円で頒布します。

■まちづくり推進室地域情報係（☎ 52-3312）

申告所得税、贈与税及び個人事業主の 消費税の申告期限・納期限延長について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から申告所得税（及び復興特別所得税）、贈与税及び個人事業主の消費税について、4月16日（木）まで延長されることとなりました。なお、マイナンバーカードやお近くの税務署で発行するID・パスワードがあれば、確定申告会場に出向くことなく、ご自宅などからスマートフォンやパソコンで、e-Tax（電子申告）を利用して提出できます。

■お問い合わせ 北見税務署（☎ 23-7151）
町民生活課税務係（☎ 52-3315）

今晚つくれる！食改さんの かんたんレシピ



かぼちゃの
ほくほくグラタン

1人分 150 kcal 食塩相当量0.3g

■材料（4人分）……………
かぼちゃ1/4個（350g）、マヨネーズ約大さじ4（56g）、玉ねぎ1/4個（50g）、サラダ油少量、牛豚ひき肉（または鳥ひき肉）100g、塩・コショウ各少量

■作り方……………
①かぼちゃは種を除き、皮付きのままラップで包んで電子レンジ（600w）で約6分加熱する。フォークでざっくりとつぶし、マヨネーズを大さじ3を加えて混ぜる。

②玉ねぎはみじん切りにする。フライパンにサラダ油を熱し、玉ねぎとひき肉を炒め、塩・こしょうで味をととのえる。

③①と②を合わせてグラタン皿に入れ、マヨネーズを線状に斜めにかける。オーブントースターでこんがりとなるまで約8分焼く。

■ワンポイント……………
マヨネーズは大さじ1で約100 kcalです。使う量には注意をしましょう。

喜びと悲しみ（敬称略）

■ご出生おめでとうございます

○加藤 晃章 亜由美	女兒 日菜（ひな）	安住	2/13
○菅井 暲太 ちなみ	女兒 琴心（ことみ）	協生	2/19

■お悔やみ申し上げます

○平田 鬼四郎	94歳	栄第一	2/5
○鈴木 トヨ	101歳	緑清園	2/7
○船木 勝子	84歳	緑栄	2/10
○池田 黎子	77歳	拓殖	2/11
○圓谷 朝吉	96歳	常元	2/13

人の動き

●世帯数	1,412世帯（－7世帯）
●人 □	2,825人（－7人）
●男1,313人（－4人）女1,512人（－3人）	

令和2年2月29日現在（ ）内は1月末比

編集後記

☆新型コロナウイルス感染症拡大防止策により人生の節目となる行事が中止や縮小に。様々な面で大きな打撃を受けた今年の北海道の冬。穏やかな春が一日も早く訪れることを祈ります。☆広報担当も早3年。出会った皆様から数多くのことを学びました。風景や人々を写し取るときは、いつも緊張と感動で夢中になる瞬間です。毎回、お邪魔虫ですが、ご容赦ください。㊦



人と、木と、おけと

置戸町

北海道
おけと



森の巨人たち100選「三本柱」

沢を探検した。わくわくの連続だった。
湿った土の匂い。足もとを通り抜けた
細い蛇。滝にかかる虹。緑の暗がりに
潜む何かの気配。こだわりなく仲間に
入れてくれた町の子たち。最高の時間。
明日帰らなければならない。
だけど、これで終わりじゃない。
約束の夏、ぼくらは流れ星を数える。

文／澤井美穂
(置戸町出身・児童文学作家)

置戸町おけとをまわると北海道の東部オホshima地方の南西端に置
し、面積の8割以上を森林が占める林業を基業の町。木のくぐり
がちな「オクラト」500坪の森を舞台にした「おけと」を
力を競う「おけと山神祭」人間は大地大会、樹齢300年ほどの巨木
「三本柱」が生ずる「日本美しの森100選」産の「子沢原景林」
……人と木が寄り添い育ちながら、まの文化を形成しています。

